

作成 2015年12月1日
改訂 2024年5月1日

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : インテリアカラー目地 (骨材)
品番 : MJ/KM-08N、KM-11~17N
会社名 : 株式会社 LIXIL
住所 : 東京都品川区西品川一丁目1番1号
担当部門 : LWTJ タイル事業部 タイル製造部 伊賀上野工場 品質保証課
緊急連絡先 : 〒518-0022 三重県伊賀市三田 1030 番地
緊急連絡電話番号 : TEL 0595-21-5114 FAX 0595-21-1601

2. 危険有害性の要約

物理化学的危険性 : 火薬類 区分対象外
: 可燃性/引火性ガス 区分対象外
: 可燃性/引火性エアゾール 区分対象外
: 支燃性/酸化性ガス類 区分対象外
: 高圧ガス 区分対象外
: 引火性液体 区分対象外
: 可燃性固体 区分外
: 自己反応性物質及び混合物 区分対象外
: 自然発火性液体 区分対象外
: 自然発火性固体 区分外
: 自己発熱性物質及び混合物 区分外
: 水反応可燃性化学品 区分外
: 酸化性液体 区分対象外
: 酸化性固体 分類できない
: 有機過酸化物 区分対象外
: 金属腐食性物質 分類できない

健康に対する有害性 : 急性毒性 (経口) 分類できない
: 急性毒性 (経皮) 分類できない
: 急性毒性 (吸入: ガス) 分類対象外
: 急性毒性 (吸入: 蒸気) 分類対象外
: 急性毒性 (吸入: 粉塵) 分類できない

- : 急性毒性（吸入：ミスト） 区分対象外
- : 皮膚腐食性／刺激性 分類できない
- : 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 分類できない
- : 呼吸器感作性 分類できない
- : 皮膚感作性 分類できない
- : 生殖細胞変異原性 区分2
- : 発ガン性 区分1
- : 生殖毒性 分類できない
- : 特定標的臓器／全身毒性（単回ばく露） 区分1
- : 特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露） 区分1
- : 吸引性呼吸器有害性 分類できない

- 環境に対する有害性
- : 水生環境有毒性（急性） 分類できない
 - : 水生環境有毒性（慢性） 分類できない

<ラベル要素>

絵表示又はシンボル



- 注意喚起語 : 危険
- 危険有害性情報 : 遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれ
長期又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器、腎臓）

注意書き

- <安全対策> : 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面／防じんマスクを着用すること。
粉じんを吸入しないこと。
製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手、顔を洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

<応急措置>

- : 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全

て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で 15～20 分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。

直ちに医師に連絡すること。

気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

〈保管（貯蔵）〉：施錠して 保管すること。部外者が触れないような措置をし、保管すること。

〈廃棄〉：内容物及び容器を国、都道府県または市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

種類：目地材（骨材）

成分：珪砂等

成分名	結晶質シリカ（珪砂）
化学式	SiO ₂
官報公示整理番号 （化審法、安衛法）	1-548
C A S No.	14808-60-7
含有量	40～50%

4. 応急措置

吸入した場合：速やかに新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：速やかに水で洗い流し、必要に応じて医療処置を受ける。

眼に入った場合：速やかに清浄な水で 15～20 分間注意深く洗うこと。直ちに医師に連絡すること。水で数分間注意深く洗うこと。

飲み込んだ場合：無理に吐かせないで、水でよく口の中を洗浄したのち、直ち

に医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合

: 気分が悪いときは、医師の診断及び手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火方法

: 不燃物であり、製品による火災は起こり得ない。

消火剤

: 不燃物であるため、必要としない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 作作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉じん、ガスを吸入しないようにする。風上から作業する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。漏出した場所の周辺に、ロープを張る等して関係者以外の立入りを禁止する。こぼれた場所は滑りやすいので注意する。

環境に関する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境中の生物や水質に影響を及ぼさないように注意する。濃厚な洗浄水は、中和、希釈処理等を行い、直接河川や下水に漏出しないように注意する。

除去方法 : 飛散した粉末は、掃除機等で吸い取って回収する。床面等に付着したものは水道水で洗浄する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

: 労働安全衛生法等の関連法規に準拠して作業する。取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器、または局所排気装置を設置する。皮膚との接触の恐れがある場合には、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。

注意事項

: 該当なし

安全取扱い注意事項

: 水と接触するとアルカリ性(pH12~13)を呈し、皮膚及び目に対する刺激性がある。

保管

適切な保管条件

: セメントと同様の扱いとし、湿気の少ない場所にパレット等を敷き、床面より離して保管する。。

技術的対策

: 該当なし

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	: 労働安全衛生法・作業環境評価基準	2. 9 mg/m ³
許容濃度	: 日本産業衛生学会（2006 年度版） 第 2 種粉じん	
	吸入性結晶質シリカ	0.03 mg/m ³
	吸入性粉じん	1mg/m ³
	総粉じん	4mg/m ³

設備対策 : 作業を室内でする場合は、粉じん濃度が許容量以下になる能力を有する換気装置を備える。取扱い場所の近くに、緊急時に洗顔及び身体洗浄を行うための設備を設置する。

保護具 : 呼吸用保護具 簡易防じんマスク
目の保護 側板付き保護メガネ(眼鏡)、ゴーグル型
手の保護 保護手袋(ゴム)
皮膚及び身体の保護具 保護服、保護長靴、保護前掛け

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 粉末
沸点	: 2230°C(石英、結晶質シリカ(珪砂)として)
融点	: 1610°C(石英、結晶質シリカ(珪砂)として)
比重	: 2.5
溶解度	: 水に難溶性
揮発性	: なし
その他	: 爆発性なし

10. 安定性及び反応性

引火点	: 不燃物質
発火点	: 不燃物質
可熱性	: 不燃物質
発火性	: なし
酸化性	: なし
自己反応性・爆発性	: なし
安全性・反応性	: 通常の取り扱い条件(常温)では安定。

11. 有害性情報 : 多量に長時間吸入すると「じん肺」になる恐れがある。

急性毒性

経口

: GHS 分類: 分類できない

	データ不足のため分類できない。
経皮	: GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
吸入: ガス	: GHS 分類: 分類対象外 GHS の定義における固体である。
吸入: 蒸気	: GHS 分類: 分類対象外 GHS の定義における固体である。
吸入: 粉じん及びミスト	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性	: GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	: GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: GHS 分類: 区分 2 In vivo では、本物質を用いてラットに 13 週間吸入ばく露し肺胞上皮細胞の hprt 遺伝子突然変異を調べた試験で突然変異頻度の有意な増加が認められたとの報告がある (SIDS (2013))。それ以外に in vivo、in vitro のデータはない。以上より、データが限定されるものの、ガイダンスに従い区分 2 とした。なお、本物質の遺伝毒性は、当該物質からの、あるいは当該物質による炎症細胞からの活性酸素種に起因すると考えられる (SIDS (2013)、IARC 100C (2012))。
発がん性	: GHS 分類: 区分 1 多くの疫学研究結果において、本物質を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし、異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012)、SIDS (2013))。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている (IARC 100C (2012))。 一方、実験動物ではラットに本物質 20 mg/匹を単回胸腔内注

射後に生涯観察した結果、投与群では平均生存日数が 597 日で 4 例（4/32 例）に組織球性悪性リンパ腫が認められたのに対し、対照群では平均生存日数は 717 日で同タイプの腫瘍発生はみられなかった（0/32 例）との報告がある（IARC 68（1997）、ACGIH（7th, 2006））。

以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質の粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997 年に「グループ 1」に分類し、2012 年の再評価でも分類結果を変更していない（IARC 68（1997）、IARC 100C（2012））。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が結晶質シリカに対して、「第 1 群」に（産衛学会勧告（2015））、ACGIH が 2004 年以降、本物質に対し「A2」に（ACGIH（7th, 2006））、NTP が 1991 年以降、結晶質シリカ（吸入性粒子径）に対して、「K」に分類している（NTP RoC（13th, 2014））。よって、本項は区分 1A とした。

- 生殖毒性 : GHS 分類: 分類できない
データ不足のため分類できない。
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露） : GHS 分類: 分類できない
データ不足のため分類できない。
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露） GHS 分類: 区分 1（呼吸器）
ヒトにおいて、本物質は石英と同様珪肺症が報告されている。また、実験動物では α -石英に比べてより炎症性で線維形成性があることが報告されている（ACGIH（7th, 2006））。したがって、区分 1（呼吸器）とした。
- 吸引性呼吸器有害性 GHS 分類: 分類できない
データ不足のため分類できない。
- 1 2. 環境影響情報 : 生態影響についてはデータなし。
- 1 3. 廃棄上の注意 : 内容物・容器を、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。
洗浄水などの排水は、水質汚濁防止等の関連諸法令に適合するように十分留意しなければならない。
- 残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委

託して処理する。

汚染容器及び包装 : 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意 :

国際規制

国連番号 -
国連品名 -
国連危険有害性クラス -
副次危険 -
容器等級 -
海洋汚染物質 該当しない。

MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質
該当しない

国内規制

海上規制情報 船舶安全法に従う。
航空規制情報 航空法に従う。
陸上規制情報 消防法、道路法に従う。
特別安全対策 移送時にイエローカードの保持が必要。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号 -

15. 適用法令 :

じん肺法 : 第 2 条施行規則別表 粉じん作業

化学物質排出把握管理促進法 (P R T R 法) : 非該当

労働安全衛生法 : 結晶質シリカ

名称等を表示すべき危険有害物 (法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9)

名称等を通知すべき危険有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9)

: 結晶質シリカ

リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 (法第 57 条の 3)

がん原性物質 : 結晶質シリカ

皮膚等障害化学物質 (労働安全衛生規則第 594 条の 2 第 1 項)

皮膚刺激性有害物質 : 該当しない

毒物及び劇物取締法 : 該当しない

16. その他

: 記載事項は現時点で入手できた資料・情報・データに基づき作成してありますが、物理化学物質性・危険性・有害性等に関しましては、いかなる保障をなすものではありません。又、注意事項は通常取り扱いを対象としたもので、特殊な取り扱いを行う場合には、十分な安全・衛生・環境対策を実施して下さい。

改訂 2016年 8月 18日

2022年 12月 1日

2023年 3月 29日